

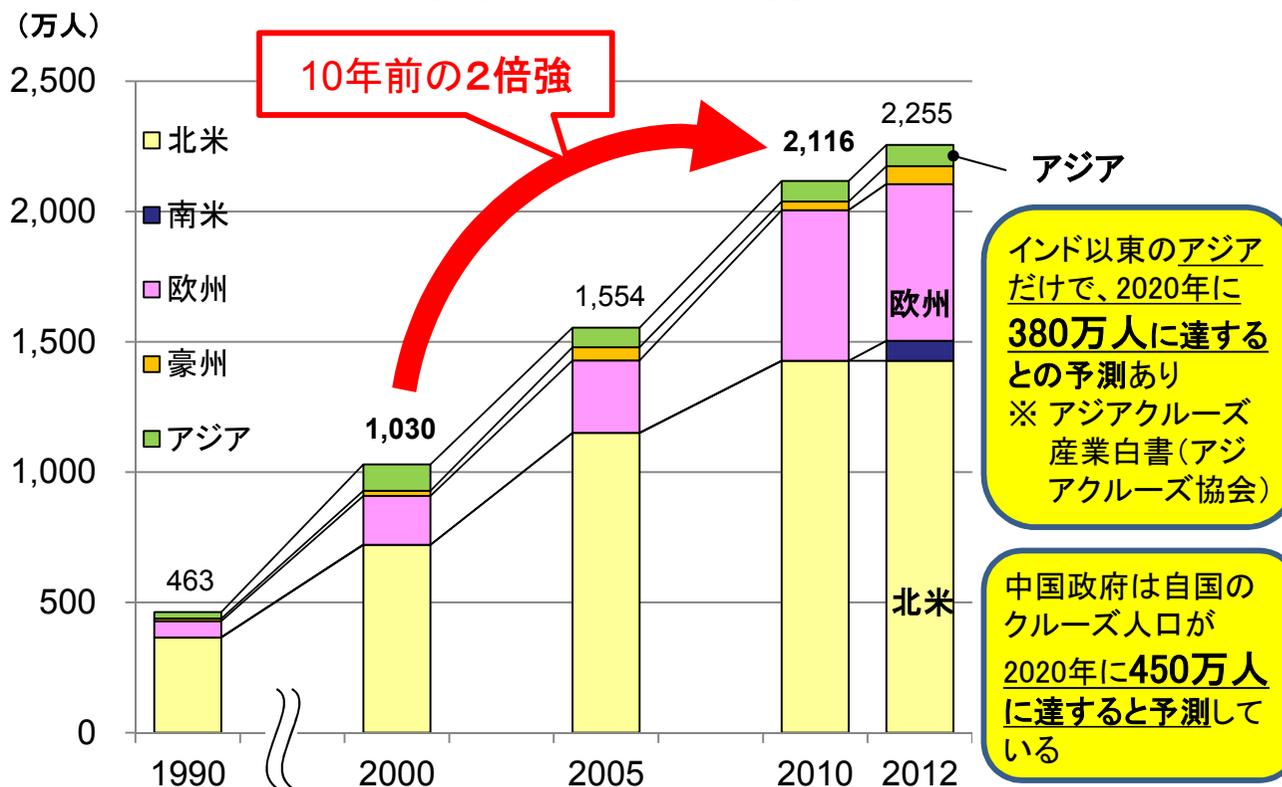
クルーズ振興を通じた地方創生

平成28年2月2日
国土交通省 港湾局

世界のクルーズ人口の現状と将来予測

○世界のクルーズ人口は急速に増加し、10年前の2倍強(2000年(1,030万人), 2010年(2,116万人))となり、今後
も増加する見込み。
○アジアでは、経済の急成長とともにクルーズ人口が急増すると言われ、2020年にインド以東のアジアだけで380
万人に達するとの予測もある。

世界のクルーズ人口の推移



出典: 2014年海事レポート(国土交通省)より港湾局作成

＜日本のクルーズ人口＞

2012年 21.7万人
2013年 23.8万人
2014年 23.1万人 出典: 海事局調べ

世界のクルーズマーケットのイメージ

ラグジュアリー(ブティック※・探検船等含む)

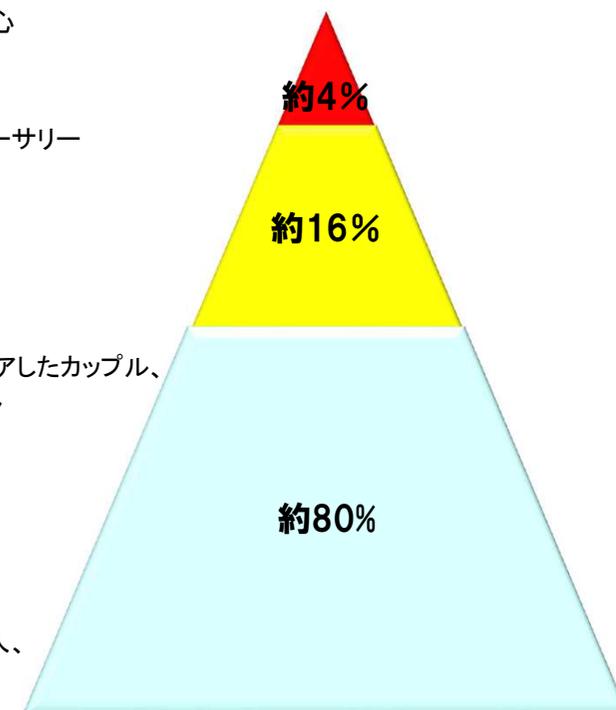
10泊以上のクルーズ中心
1泊: \$400~
年齢層: 50代以上、
タイプ: リタイア、アニバーサリー

プレミアム

7泊以上のクルーズ中心
1泊: \$200~
年齢層: 30代以上
タイプ: 熟年以上、リタイアしたカップル、
友人、ハネムーン

カジュアル

3~7泊のクルーズ中心
1泊: \$70~
年齢層: 20代以上、
タイプ: 現役~熟年、友人、
ファミリー



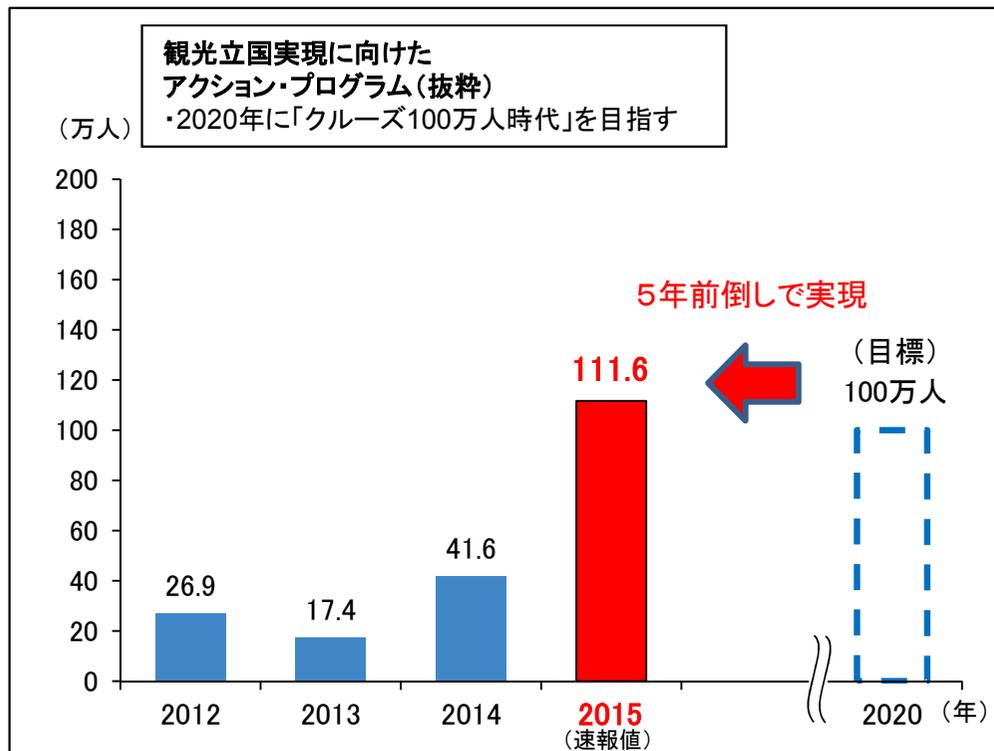
※小型の豪華客船によるクルーズ。料金は1泊あたり600米ドル以上。

出典: クルーズ教本(平成27年版)(JOPA)より港湾局作成

クルーズ船の寄港動向①

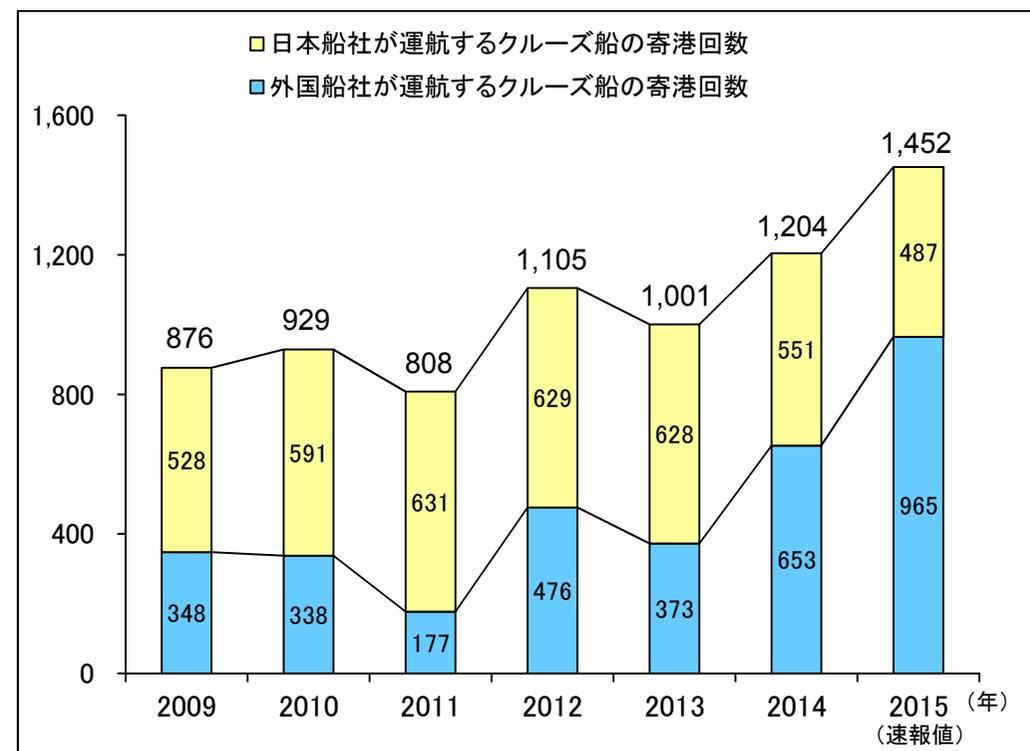
- 2015年中に我が国へクルーズ船により入国した外国人旅客数は前年比2.7倍の約111.6万人(概数)。
- 外国船社が運航するクルーズ船の我が国港湾への寄港回数は前年比約5割増の965回、日本船社も含めると1,452回となり、いずれも過去最高。
- 我が国は「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」に基づき、2020年にクルーズ船で入国する外国人旅客数100万人(クルーズ100万人時代)を目指し取組を進めてきたが、これを5年前倒して実現したところ。
※クルーズ:レジャーを目的とした船旅で宿泊を伴うもの

クルーズ船による外国人入国者数(概数)



注1) 法務省入国管理局の集計による外国人入国者数で概数(乗員除く)。
注2) 1回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客についても、(各港で重複して計上するのではなく)1人の入国として計上している。

我が国港湾へのクルーズ船の寄港回数



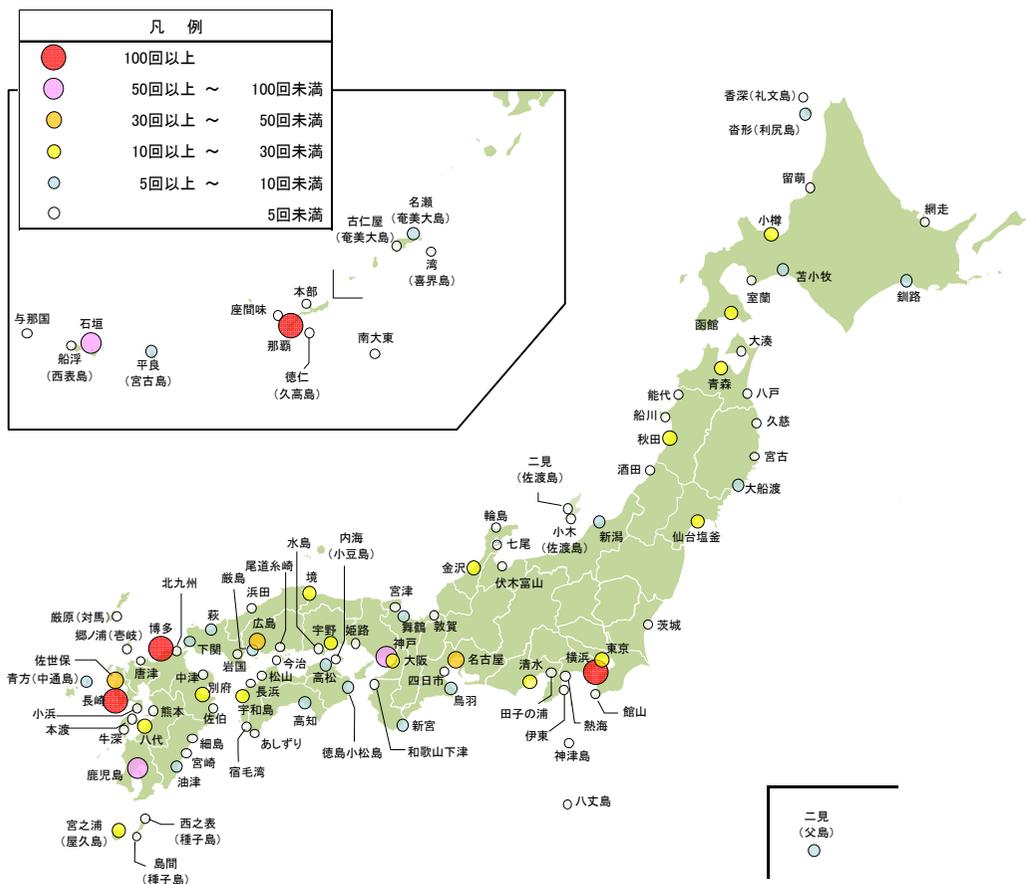
出典: 港湾管理者への聞き取りを基に国土交通省港湾局作成

注) 2015年の値は、港湾管理者からの聞き取りによる速報値であり、今後、変動する可能性がある。

クルーズ船の寄港動向②

○2015年にクルーズ船が寄港した港湾の数は、全国で104港に及ぶ。
 ○また、外国船社が運航する10万トン(2千人~4千人超乗)以上の大型クルーズ船の寄港は、前年(154回)の約2倍に増加し、304回となった。

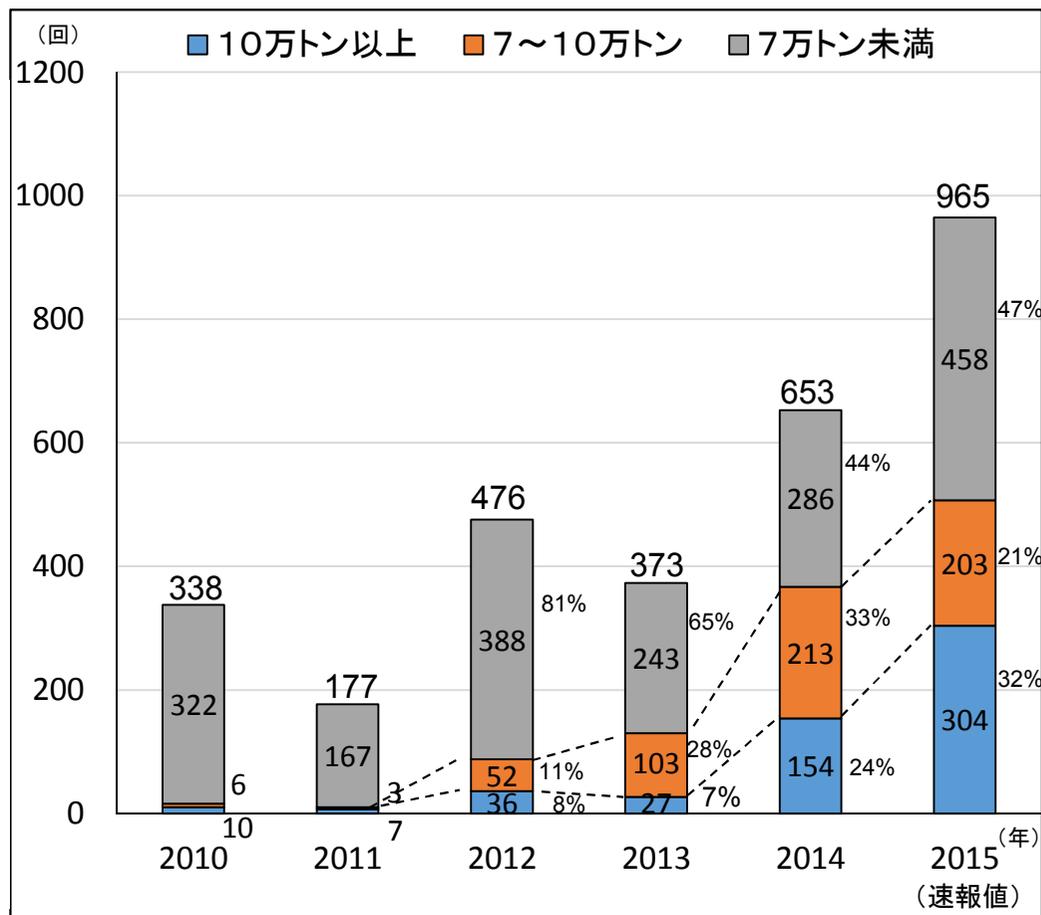
クルーズ船の寄港する港湾(2015年)



全国の104の港湾にクルーズ船が寄港

出典: 港湾管理者への聞き取りを基に国土交通省港湾局作成

寄港するクルーズ船の船型(外国船社)



出典: 港湾管理者への聞き取りを基に国土交通省港湾局作成

注) 2015年の値は、港湾管理者からの聞き取りによる速報値であり、今後、変動する可能性がある。

「クルーズ100万人時代」に向けた取組

○「クルーズ100万人時代」の実現を目指し、ソフト・ハード一体となった以下のような取組を推進してきたところ。

クルーズ船社に対する寄港促進の取組

○問い合わせ窓口の一元化

・クルーズ船社からの問い合わせに、一元的に「ワンストップ窓口」(国土交通省港湾局)で対応。

○寄港地情報の一元的発信

・クルーズ船社が寄港に必要とする情報
 ①港湾施設の諸元
 ②寄港地を起点とした観光情報を、ウェブサイトから一元的に発信。(英語、日本語)

○商談会等の開催

・全国115の首長等が参加する「全国クルーズ活性化会議」と連携して、クルーズ船社、自治体等が参加する商談会を開催。



港湾における受入向上の取組

○クルーズ埠頭への臨時の免税店の出店

・クルーズ埠頭に免税店を臨時出店する際の手続きを簡素化し、出店を促進。



岸壁や旅客船ターミナルにおける地元物産販売の例

○クルーズ船の受入環境の改善

・貨物埠頭等の既存ストックを活用しつつ、クルーズ船の受入環境を改善。

